

鋼構造環境小委員会 2012 年度第 1 回議事録

日 時： 2012 年 6 月 1 日（金） 16:00～19:00
場 所： 建築会館会議室 301 号
出席者： 藤田(正)，緑川，長尾，木村(衛)，小岩，藤田(哲)，木村(麗)，松元，
岡崎，兼光（敬称略）

記録：兼光

資料

- 2012-1-1 鋼構造環境小委員会 2011 年度第 5 回議事録（兼光）
- 2012-1-2 PD プログラム（藤田(正)）
- 2012-1-3 鋼構造のリユースの現状と今後のあり方（藤田(正)）
- 2012-1-4 リユース建物の性能評価法（長尾）
- 2012-1-5 事例 2（施工の観点）（兼光）
- 2012-1-6 事例 3（戸建住宅）（松元）
- 2012-1-7 鋼構造要素のリユースを促進する関連技術（岡崎）
- 2012-1-8 参考資料：鋼構造環境小委員会の取組みと既刊「建築部材のリユース
マニュアル・同解説」（木村(麗)）
- 2012-1-9 英語表現について（岡崎）

議事

1. 前回議事録の確認（資料 2012-1-1）
 - ・兼光より，資料 2012-1-1 を読み上げ，了承された。
2. PD プログラム（資料 2012-1-2）
 - ・藤田(正)主査より，2012 年度大会 P D のプログラムを 2012-1-2 にて提出したとの報告があった。
3. P D 各担当の原稿確認
 - (1) 主題説明：鋼構造のリユースの現状と今後のあり方（資料 2012-1-3）
 - ・藤田(正)主査より，資料 2012-1-3 にて説明があった。
 - ・「鋼構造物のリユース」の定義を記述した。

[意見]

- ・本 P D で議論する「鋼構造物のリユース」の定義には含まれないが，既存建物の利用も，環境負荷低減という意味では有効である。また，今後のあり方（技術，コンセプトなど）は，既存建物利用にも使える可能性がある。主題解説では，本議論が既存建物の利用にも活用可能であることと，本 P D では議論から外した理

由などを記した方がよいのではないか。

- ・本P Dの目的は、「鋼構造物のリユースに関して、現状を認識した上で、今後のあり方」を議論することだということを、はっきり記述してほしい。

(2) 主題解説：リユース建物の性能評価法（資料 2012-1-4）

- ・長尾委員より、資料 2012-1-4 にて説明があった。

[意見]

- ・資料は、性能評価方法で使える既存の技術について理解を深めるために、十分な資料だと思う。しかし、鋼構造物のリユースの今後を考えた場合、現状の技術だけでは足りないはずである。性能評価法の今後のあり方や、そのあり方を実現するためには何が必要か、何が足りないかについても、是非言及してほしい。
- ・例えば、SS50, SS55 を排除ではなく、どうしたら SS50, SS55 を使えるかを考える。
- ・塑性解析は、リユースのための性能評価方法の中で、どのように位置づけられるかが明確でないのでは。

(3) 主題解説：事例 2（施工の観点）(資料 2012-1-5)

- ・兼光委員より、資料 2012-1-4 にて説明があった。
- ・建築の施工案件は少なく、移築に近いものが多いことから、今後、鋼構造物のリユースに使える技術や考え方を紹介する形とした。

[意見]

- ・話題が多いので、発表時は効率よく説明してほしい。
- ・スラブの鉄骨梁とコンクリートの分離、C F Tの鋼板とコンクリートの分離は、現状はどうしているのか。
- ・耐火被覆も解体は難しいのではないか。
- ・分離・解体が難しい部分は、今後の課題ではないか。

(4) 主題解説：事例 3（戸建住宅）(資料 2012-1-6)

- ・松元委員より、資料 2012-1-6 にて説明があった。
- ・住宅での実際のリユースの事例を紹介する。

[意見]

- ・住宅は、「鋼構造物のリユース」がうまくいっている例という位置づけでよいか。
- ・図 18 の詳細は示せないか 外部発表した情報のみの掲載としたい。

(5) 参考資料：鋼構造要素のリユースを促進する関連技術（資料 2012-1-7）

- ・岡崎委員より、資料 2012-1-7 にて説明があった。
- ・今後、「鋼構造物のリユース」で活用できる技術として、構造接着剤および鋼板を高力ボルトで繋ぎ合わせる構造に関する研究を紹介する。

(6) 参考資料：鋼構造環境小委員会の取組みと既刊「建築部材のリユースマニュアル・同解説」(資料 2012-1-8)

- ・木村(麗)委員より，資料 2012-1-8 にて説明があった。
- ・本小委員会は，「鋼構造物のリユース」に必要な新しい技術のあり方を提示することが目的である。この資料では，その新しい技術を考える上で，既刊「建築部材のリユースマニュアル・同解説」の情報が必要であると考え，参考として示した。

(7) まとめ

- ・まとめを担当する木村(衛)より，委員の方（特に，主題解説する方）へ，以下のお願いがあった。
- ・今後のあり方について，各人が思うことを示してください。まとめの参考にしたい。

4. 英語表現について（資料 2012-1-9）

- ・岡崎委員より，資料 2012-1-9 にて，英語表現案の説明があった。
- 今後，英語で表記する場合は，資料 2012-1-9 をベースに検討する。

5. 次回の予定

- ・日時 2012年7月9日（月） 16:00-19:00
- ・場所 建築会館会議室
- ・議題：
 - (1) PD 大会原稿の最終確認
 - (2) その他